



9月に入っても各地で猛暑が続いておりますが、読者の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
ニューズレターVol.196.9月号をお届けします。
是非ご一読いただき、皆様の活動にお役立てください。
今後も皆様の活動に有用な、できるだけ多くの情報をお届けしますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

編集部 一同

□■トップメッセージ■□

循環型社会元年生まれ、大学院生の視点

山田 大智

京都大学大学院 修士二年

平成12年は循環型社会形成推進基本法が制定されたことから、「循環型社会元年」と呼ばれるそうだが。この言葉がどこまで一般的に浸透しているものなのかはわからないが、同年に生まれた身としては、ちょっとした縁を感じている。本トップメッセージの寄稿者としては、比較的若い人間であるから、表題のようなテーマが読者の皆様にとっても興味深いことだろうと考えた。

我々の世代は、「地球温暖化」や「リサイクル」といったキーワードを、当たり前のように耳にしながら育ってきた。廃棄物・資源循環分野に進んだ自分は、相当に影響を受けている側といえるだろう。こういったキーワードに対する受け取り方は三者三様であるが、不信感に近い感覚を抱く者（自分もある意味ではその一人）も少なくないと感じている。実際、「プラスチックごみのリサイクルに関する研究をしている」と友人に話せば、時には渋い顔をされることもある。

こうした反応の裏には、国民一人一人に求められている行動や、各主体が発信する取り組みの中にあるはずの「社会全体としての合理性」が、見えにくかったり、時に曖昧で感情的な表現でマスクされていたりするケースに対して、特に若い人間は敏感になりやすいということがあるのではないかと考えている。

多くの主体（あるいは、全人類）が関わる当分野は、その分考えるべきことも多いから、社会的な合理性の担保が簡単でないことも事実である。自身の専門であるプラスチックごみに話を絞れば、分別や素材代替をどこまで進めるのが合理的なのか、完璧な一つの答えを出すのはほとんど不可能であると言えるだろう。ただし、言い切れないのでやりません、とは決してなつてはいけないのが環境問題の難しさ（予防原則）である。

入り組んだ課題を多面的に考え抜き、システムや制度、技術の力で解決に導いていくことこそが、私の考える廃棄物・資源循環分野の面白さであり、こういった側面が広く知られることで、自分のように納得感をもって主体的に関わりたいと思う、次世代の人間も増えていくのではないかなと思う。

まだまだ課題はあれど、付加価値を生み出していくための議論に移ることができているのは、廃棄物処理の最優先事項である衛生環境の確保や、直接埋め立ての回避（焼却による減容の徹底）といったところを、先人たちがクリアしてきたからこそだと、常々感じている。自分はまだ学生の立場ではあるが、廃棄物・資源循環分野がより良くなるよう、日々考え、行動していきたい。

【プロフィール】



山田 大智（やまだ だいち）

本ニュースレター編集メンバーの一人

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 平井研究室所属

2000 年神奈川県川崎市生まれ

地元川崎における公害の歴史や、書籍の『里山資本主義』、ユニセフのリサイクル事業等をきっかけに資源循環、環境保全に関心を持つ。2019 年に京都大学工学部地球工学科に入学。

研究テーマは、「生分解性プラスチックを導入した家庭系廃棄物処理システムのライフサイクル分析」、「リサイクルパラメータに着目した家庭系廃プラスチックの排出実態調査」、「バイオプラスチックの代替原則に基づいた代替ポテンシャル解析」など、家庭系廃プラスチックを軸に手広く取り組む。来年度からプラントメーカーに入社予定。

□■ 3 R ・ 気候変動検定からのお知らせ ■□

□■□ 「エネルギー・環境マネジャーキャリア段位制度」認定における試験免除のご案内 □■□

「国家戦略・プロフェッショナル検定」において「エネルギー・環境マネジャーキャリア段位制度」というものがありますが、資格のレベル認定における「試験免除」が実施されており、本検定合格者もその対象となります。

具体的には、「3 R ・ 気候変動検定」に合格された方で

- ◆ 2 年の実務経験（時期不問）があれば申請によってレベル 2 の認定取得が可能
- ◆ レベル 1 を申請の場合は、申請だけで認定の取得が可能（実務経験不要）となります。

詳細は、一般社団法人産業環境管理協会ホームページ（<http://www.jemai.or.jp/eemanager/about.html>）または、内閣府ホームページ（<https://www5.cao.go.jp/keizai1/jissen-cu/jissen-cu.html>）をご覧ください。

今年の夏も一段と暑いですね！ご無事にお過ごしでしょうか。

酷暑も含めた気候変動や資源の循環、生きものたちの多様性など、環境への取り組みに加えて、

「人や社会が心地よく健やかに過ごせること（ウェルビーイング）」の大切さにも注目が集まるようになってきました。

そんな中で、これからの社会を支える“グリーン人材”をどう育てていくか、

社会全体がその方向へと変わっていくための動きが、いろいろな地域で少しずつ広がっています。

今回は、実際に現場でグリーン人材として活躍されていたり

グリーン人材を育成している方々をお招きし、

「これからどうしていけばいいの？」というユースからの問いや提案も交えながら、

一緒に考えていくシンポジウムを国立京都国際会館でひらくことになりました。

シンポジウム 未来を変える選択 ～グリーン人材を 社会で共創する～

専門家とユースが
語り合います！



入場
無料

ハイブリッド
開催



櫻井 紫
広島県東広島市志和町
地域おこし協力隊



内藤 由理
世界自然保護基金（WWF）ジャパン
自然保護室・企画管理室



中井 徳太郎
日本製鉄顧問／元 環境事務次官
公益財団 三千年の未来会議 代表



屋田 春希
経済産業省 GXグループ
環境政策課



横田 篤
北海道大学 理事・副学長
最高サステナビリティ責任者



山極 壽一
総合地球環境学研究所 所長

詳細はこちら



モデレーター

浅利 美鈴
総合地球環境学研究所 教授



閉会挨拶

喜多 隆
神戸大学 理事・副学長

場 所：国立京都国際会館 Room D

主 催：総合地球環境学研究所
カーボンニュートラル達成に
貢献する大学等コアリション

共 催：文部科学省、経済産業省、環境省
KYOTO地球環境の殿堂 運営協議会
事務局

9月20日(土)

10:00 - 12:00

申込フォームは
こちら ⇒
事前申込制



◆ 事前申込制：申込期限 9 月 18 日 17：00

申込リンク：<https://forms.office.com/r/sLC5pa2V2V>

当日参加：可・一般・250 名

◆ 日時

2025 年 9 月 20 日（土） 10:00-12:00

◆ 会場

国立京都国際会館 RoomD ※ハイブリッド開催

◆ プログラム

10:00～10:05 開会挨拶 山極壽一 所長（総合地球環境学研究所）

10:05～10:15 来賓等ご紹介

10:15～11:55 シンポジウム（産学公の登壇者と、ユースらによる対話）

モデレーター：浅利美鈴（総合地球環境学研究所グリーンナレッジセンター長・教授）

<登壇者> 順不同

櫻井 紫 氏（広島県東広島市志和町地域おこし協力隊員）

内藤 由理 氏（公益財団法人世界自然保護基金（WWF）ジャパン自然保護室・企画管理室）

中井徳太郎 氏（日本製鉄顧問、元環境事務次官、「三千年の未来会議」代表理事）

屋田 春希 氏（経済産業省 GX グループ 環境政策課 総括係長）

横田 篤 氏（北海道大学 理事・副学長、最高サステナビリティ責任者）

山極 壽一 氏（総合地球環境学研究所 所長）

11:55～12:00 閉会挨拶 喜多 隆 氏（神戸大学 理事・副学長）

主 催：総合地球環境学研究所、カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション

共 催：文部科学省、経済産業省、環境省、KYOTO 地球環境の殿堂 運営協議会 事務局

詳しくは地球研ホームページまで

<https://www.chikyu.ac.jp/rihn/events/detail/297/>

ご興味のある方は、ぜひお気軽にご参加ください！

オンラインでもご参加できます！！

◆ シンポジウム当日は、13：00 から「KYOTO 地球環境の殿堂国際会議・未来会議」が Room A で開催されます。

<https://www.pref.kyoto.jp/earth-kyoto/annai/index.html>

是非併せてご参加ください。

関西広域連合主催「関西脱炭素フォーラム 2025」の開催について

関西広域連合主催、エコネット近畿運営で、「関西脱炭素フォーラム 2025」を開催します。

関西全体で、住民・事業者・団体・行政が脱炭素社会の実現に向けた主体的な行動を広げていくことを目的としたフォーラムです。

当日は、基調講演や先進的な事例紹介に加え、展示ブースでの交流時間を設けます。

各展示ブースでの交流は、出展者の皆さまに脱炭素に向けた取組を直接 PR いただける場をご用意しております。

現在、展示ブースの出展者を募集しています。

脱炭素に取り組む皆さまの活動を広く紹介し、つながりをつくる機会としてぜひご活用ください。

=== 開催概要 ===

【日 時】2025 年 11 月 7 日（月）13:30～17:30（開場 13:00～／ブース展示開始）

【場 所】マイドームおおさか 1 階 展示ホール A（大阪府中央区本町橋 2 番 5 号）

【内 容】◎第 1 部「講演」（13:40～）

基調講演および企業による脱炭素に関する事例紹介

◎第 2 部「展示ブースでの交流・ネットワーキング」（15:45～）

・脱炭素に向けて取り組む企業・団体に出展・取組紹介

・支援機関による事業者向けの脱炭素に関する展示・相談ブース

【参加費】無料

【申 込】ブース出展をご希望の方は、次の申込フォームよりお申込みください。

※申込締切：2025 年 10 月 1 日（金）

出展申込フォーム：<https://forms.gle/bBjtyEK8W4uGpFZE6>

※本フォーラムの参加者申込受付は、9 月下旬頃からを予定しております。

▼過去に開催した関西脱炭素フォーラムについて

2023 年開催報告

<https://econetkinki.org/20231121forumreport/>

2024 年開催報告

<https://econetkinki.org/20241112forumreport/>

=====

【主 催】関西広域連合

【運営・問合せ先】

NPO 法人エコネット近畿（近畿環境市民活動相互支援センター）

TEL：06-6881-1133 E-mail：jimukyoku@econetkinki.org

【1】ニュースレター「R」でつながるへの寄稿をお願いします！

寄稿を受け付けているのは次のコーナーです。なお、お寄せ頂いた方の中から、反響の多かった記事に（甲乙つけがたい場合は抽選で）素敵なプレゼントを差し上げます。プレゼントを希望される方は、希望番号もお書き添えください。

◆合格者の声：名前、活動エリア・都道府県、所属団体、なぜ受けようと思ったのか？受けてみての感想は？今後の活動の夢や目標は？公式テキストのおすすめページは？

◆読者の投稿コーナー

○イベント情報・宣伝：自分や自分の所属する団体（行政や企業を含む）がこれから実施するイベントを紹介してください。ご自身のお名前（紹介者として掲載します）、イベントタイトル、日時、場所、概要（100字程度）、申込み方法、紹介WEBサイトなどをご連絡ください。

○イベント報告：自分や自分の所属する団体（行政や企業を含む）が実施したイベントについてご報告ください。写真なども添えて、楽しいご報告を！（200字以内）

○リーダーお薦め&お役立ち情報：3 R・気候変動に関連して、

「この本は目から鱗だった」

「このグッズはすごく3 Rだ」

「こんな勉強会をやったらとてもうまくいった」

「ここを訪ねたらとても勉強になった」

「ここの3 Rゆるキャラはよくできている」

などの耳より情報をお待ちしております。100～300字程度で。

◆今月の写真：3 R・気候変動に関連する写真に近況を添えて。

【応募方法】

- ・ 募集元：一般社団法人持続可能環境センター 担当：ニュースレター編集委員会
- ・ 応募先：ex@3r-cc.jp までお送りください。ご質問等はこちらへ。

【プレゼントの例】

- 1.合格者バッチ（定価：1,000 円）
- 2.書籍「環境学～21 世紀の教養～」（定価：2,700 円＋税）
- 3.高月紘（ハイムーン）お手製グッズ
- 4.本検定代表（浅利美鈴）のソロモン諸島お土産セット
- 5.ふろしき研究会提供のふろしき

【2】プロジェクトアイデア募集しています！

3 R・気候変動リーダーズクラブでは、「こんなことに取り組みたい！」「こんなことに取り組んでみたら？」という意見やアイデアなどもお待ちしております。ex@3r-cc.jp までご連絡ください

■最近のニュース

◆環境省

○瀬戸内海プラスチック対策ネットワークによる令和7年度瀬戸内海流域一斉清掃の開催について（関係府県同時発表）

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00316.html

瀬戸内海流域の14府県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県及び大分県）と環境省は、令和5年に「瀬戸内海プラスチック対策ネットワーク」を立ち上げ、瀬戸内海におけるプラスチックを含む海洋ごみ削減に向けた取組を進めています。その活動の一環として、今年度から、国連国際デーである「世界クリーンアップ・デー」を含む9月から11月までの3か月間を対象にして「瀬戸内海流域一斉清掃」キャンペーンを実施します。

○令和7年度脱炭素まちづくりアドバイザー派遣希望地方公共団体の三次公募及び二次公募の採択結果について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00290.html

環境省では、地域脱炭素に関する専門的な知識・経験を有する者を「脱炭素まちづくりアドバイザー」として登録し、地方創生に資する地域脱炭素に主体的に取り組もうとする地方公共団体に対して派遣しています。今般、脱炭素まちづくりアドバイザーの派遣を希望する地方公共団体の三次公募を行います。

また、派遣希望地方公共団体の二次公募を行い、厳正な審査の結果、**22件**採択しましたのでお知らせします。

○あなたのサステナブルな取組を国内外に発信しませんか？～「サステナアワード2025」募集開始～

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00327.html

1. 環境省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」の一環で、農林水産省及び消費者庁と連携し、「あふの環（わ）2030プロジェクト」を実施しています。

2. 本プロジェクトにおいて、食や農林水産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰する「サステナアワード2025」の募集を本日開始します。特に優れた作品には、農林水産大臣賞、環境大臣賞、消費者庁長官賞及びAgVenture Lab 賞を授与します。

3. 募集期間は、令和7年8月1日（金）から同年10月31日（金）までです。

○県外最終処分に向けた環境省の取組についてのパネルディスカッション（東京会場）について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00388.html

1. 環境省では、福島県内除去土壌等の県外最終処分に向けた復興再生利用等の理解醸成活動として、パネルディスカッション（東京会場）を実施します。

2. 開催日は、令和7年9月5日（金）及び同年9月6日（土）です。

○大阪・関西万博における資源循環及び大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に向けた体験型企画の実施について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00387.html

1. 環境省では、令和7年9月23日（火・祝）から同年9月29日（月）まで、大阪・関西万博会場内 EXPO メッセ「WASSE」南ホール内の「サーキュラーエコノミー研究所」において、資源循環やプラスチック汚染問題について学べる体験型企画を実施します。

2. 大阪・関西万博では、令和7年9月17日（水）から同年9月28日（日）を「地球の未来と生物多様性」に関するテーマウィークとしており、本企画は、その中のプログラムの一つとして開催されるものです。

3. 企画会場への入場は予約不要ですが、環境省主催の一部のステージイベントやワークショップについては事前参加登録も可能です。

○令和7年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業の実施自治体の決定について（追加）

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_20240614_1_00005.html

1. 環境省では、国内における海洋ごみ対策の一層の推進を図ることを目的として、自治体と企業等が連携した海洋ごみの回収・発生抑制対策等のモデルとなる事業を認定・推進する「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」を進めています。

2. 今般、令和7年度の実施自治体の追加を決定しました。今後、追加自治体を加えた6自治体に対して、環境省より有識者の派遣を通じてコンサルティング等による支援を行います。

○「いぶき GW」（GOSAT-GW）搭載 温室効果ガス観測センサ3型（TANSO-3）の初観測について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00386.html

<宇宙航空研究開発機構(JAXA)、国立環境研究所(NIES) 同時発表>

1. 環境省は、国立研究開発法人国立環境研究所(NIES)及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)とともに、気候変動に関する科学の発展、気候変動政策・取組評価への貢献を目的に、温室効果ガス観測技術衛星（GOSAT(ゴースット)）シリーズを活用し、大気中の二酸化炭素及びメタン等を観測しています。

2. 環境省、NIES 及び JAXA が、共同で開発してきた温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶき GW」（GOSAT-GW）※1は、令和7年6月29日（日）1時33分（日本標準時）に打ち上げられました。現在、「いぶき GW」（GOSAT-GW）は初期機能確認運用※2を実施中です。

※1 「いぶき GW」（GOSAT-GW）：「いぶき GW」（GOSAT-GW : Global Observing SATellite for Greenhouse gases and Water cycle）は、宇宙から、温室効果ガスと地球の水を観測する衛星で、二つのミッション機器、すなわち高性能マイクロ波放射計3（Advanced Microwave Scanning Radiometer 3: AMSR3）および温室効果ガス観測センサ3型（Total Anthropogenic and Natural emissions mapping Spectrometer-3: TANSO-3）を搭載した地球観測衛星

※2 初期機能確認運用：人工衛星が打ち上げられた後の初期段階で、センサを含む衛星が所定の機能性能を軌道上で有しているかを確認する運用のこと

3. この度、令和7年7月14日（月）から同年7月20日（日）にかけて、同衛星に搭載された「温室効果ガス観測センサ3型（TANSO-3）」の初観測を行い※3、TANSO-3が正常に動作していることを確認しました。

※3 「温室効果ガス観測センサ3型（TANSO-3）」の初観測：「いぶき GW」（GOSAT-GW）と地上局の通信確認のための試験電波により、TANSO-3の観測データを取得すること

4. 初期機能確認（打上げ後3か月間）後は、センサの精度確認やデータ補正等の初期校正を経て、定常的な観測運用へ移行し、令和7年内の関係者へのデータ提供を目指します。

○令和7年度災害廃棄物対策推進シンポジウムの開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00382.html

1. 令和7年9月6日（土）に「令和7年度災害廃棄物対策推進シンポジウム」を開催します。
2. 今年度は「オールジャパンで進める災害廃棄物対策～平時からの備えと発災時の支援・受援～」をテーマとし、国、自治体及び有識者等から災害廃棄物対策について講演します。
3. なお、本シンポジウムは防災推進国民大会 2025 実行委員会（内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議）が主催する「ぼうさいこくたい 2025」と同時開催します。

○令和7年度地域の資源循環促進支援事業「自治体 CE 診断・ビジョン作成」の二次公募の採択結果について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00403.html

「自治体 CE 診断・ビジョン作成」について、令和7年7月22日（火）から同年7月31日（木）まで二次公募を行い、選定基準に基づき、4件を採択しましたので、お知らせいたします。

○カンボジア環境省と気候変動緩和分野における協力意向表明書を締結しました。

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00404.html

1. 環境省は、2025年7月17日にカンボジア環境省と気候変動緩和分野における協力意向表明書（Letter Of Intent）を締結しました。
2. 今後、気候変動緩和分野において、カンボジア環境省とより連携を深めていきます。

○プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第5回政府間交渉委員会再開会合の結果概要

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00461.html

2025年8月5日から15日まで、スイス・ジュネーブにおいて、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第5回政府間交渉委員会再開会合（INC5.2）が開催されたところ、会合の概要は以下のとおりです。

日本からは、中田宏環境副大臣が関連会合に出席した他、外務省（中村亮地球規模課題審議官他）、経済産業省（福本拓也 GX グループ審議官他）、環境省（小野洋参与、小川眞佐子特別国際交渉官他）、農林水産省（西浦博之輸出・国際局審議官他）から構成される政府代表団が出席しました。184か国の国連加盟国、関係国際機関、NGO 等約 3,700 人が参加しました。

○地域脱炭素フォーラム 2025（高松・名古屋・広島・仙台・新潟）の開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00430.html

1. 環境省では、脱炭素先行地域の実施等を通じて加速する地域脱炭素のうねりを更に大きくし、地方創生に資する形で全国に波及させるため、「地域脱炭素フォーラム 2025～地域脱炭素 2.0 に向けた官民連携の更なる強化～」を各地域ブロックで開催することとしています。

2. 本フォーラムは、全国 9 地域において開催することとしており、このうち 4 地域では開催済みであり、今般、次の 5 地域における開催が決定いたしました。

- ・高松開催 令和 7 年 10 月 4 日（土）
- ・名古屋開催 令和 7 年 10 月 18 日（土）
- ・広島開催 令和 7 年 10 月 22 日（水）
- ・仙台開催 令和 7 年 10 月 29 日（水）
- ・新潟開催 令和 7 年 11 月 6 日（木）

3. 本フォーラムでは、地域脱炭素に精力的に取り組む自治体や事業者、金融機関、学識者等による議論を通じて、「産官学金労言」など多様な主体を巻き込んだ地域脱炭素のムーブメントにつなげることを目指します。

○世界クリーンアップデー（9 月 20 日）にあわせた全国一斉清掃への参加呼びかけについて

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00427.html

1. 毎年 9 月 20 日は国連が定めた「世界クリーンアップデー」であり、世界各地で一斉に清掃活動が行われています。

2. 国内では、NPO 法人 WORLD CLEANUP DAY JAPAN が中心となり、9 月中の全国一斉清掃の実施を呼びかけています。

3. 環境省では、瀬戸内海関係 14 府県とともに、瀬戸内海プラごみ対策ネットワークとして、令和 7 年 9 月から 11 月までの 3 か月間を対象に、瀬戸内海流域での一斉清掃を呼びかけています。この機会に全国各地で開催される一斉清掃への参加を御検討いただきますようお願いいたします。

4. 環境省では、環境へ流出するごみを減らしていくため、プラスチックと賢くつきあう「プラスチック・スマート」のキャンペーンサイトを通じ、こうした取組を引き続き国内外に発信していきます。

○第 17 回パリ協定 6 条 4 項監督機関会合が開催されました

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00420.html

1. 2025 年 8 月 4 日から同年 8 月 7 日にかけて、第 17 回パリ協定 6 条 4 項監督機関会合がドイツ連邦共和国・ボンにて開催され、日本政府からアジア太平洋グループに議席を持つ環境省 JCM 推進室 高橋健太郎室長補佐が参加しました。

2. 第 17 回パリ協定 6 条 4 項監督機関会合では、2026-2027 年の 6 条 4 項メカニズムの事業計画が採択されました。また、パリ協定 6 条 4 項において、プロジェクト活動を実施するための規則の改訂やメカニズム方法論における抑圧された需要に対応するための基準が採択されました。

3. その他、2 件の事業がクリーン開発メカニズム（Clean Development Mechanism : CDM）から 6 条 4 項に移管されることが承認されました。6 条 4 項メカニズムのもとで、温室効果ガス排出削減量の妥当性確認と検証を行う審査機関として、新たに 5 機関が認定されました。

4. 我が国としては、6条交渉に積極的に貢献し、パリ協定6条2項に基づく二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism：JCM）で250件以上の脱炭素に貢献するプロジェクトを実施した経験に基づき、パリ協定6条4項（国連管理型）のルール形成に貢献することで、パリ協定6条全体の迅速な運用に貢献していきます。本監督機関会合の結果を参考にしつつ、JCMプロジェクトの拡大・加速に取り組みます。

○令和6年度末の汚水処理人口普及状況について

https://www.env.go.jp/press/press_00398.html

<国土交通省、農林水産省同時発表>

環境省、国土交通省、農林水産省の合同で、令和6年度末時点における全国の汚水処理人口普及状況を調査した結果、汚水処理人口普及率は93.7%（前年度から0.4ポイント上昇）となりました。

○地中熱（地下水熱）セミナーの開催について ～地産地消の再生可能エネルギー熱〔地中熱（地下水熱）〕の活用～

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00495.html

令和7年9月24日（水）に、環境省主催のセミナー「地産地消の再生可能エネルギー熱〔地中熱（地下水熱）〕の活用」を開催します。

地中熱（地下水熱）とは、利用箇所が限定される地熱と異なって、地面下の浅部の一年を通してほぼ温度が15℃前後で一定である地中（地下水）の熱を利用するものであり、主に空調用途に用いられます。

本セミナーは、地中熱（地下水熱）が脱炭素や防災面でのレジリエンス強化に貢献することに注目し、庁舎等への導入事例を取り上げ、導入事例に関する講演の他、有識者によるパネル討論を実施します。

傍聴を希望される場合は、令和7年9月17日（水）までに下記申込フォームよりお申し込みください。

○産業構造審議会イノベーション・環境分科会資源循環経済小委員会 自動車リサイクルWG 中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会合同会議（第60回）の開催について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00473.html

1. 産業構造審議会イノベーション・環境分科会資源循環経済小委員会自動車リサイクルWG 中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会合同会議（第60回）を、令和7年9月5日（金）に開催しますので、お知らせします。

2. 本合同会議はweb会議併用のハイブリッド方式により開催します。

○家電リサイクル法に基づく立入検査の実施状況について（令和6年度分）

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00491.html

1. 令和6年度における特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）第53条に基づく小売業者への立入検査の実施状況について取りまとめましたので、公表します。

2. 環境省と経済産業省では、令和6年度に小売業者に対する立入検査を464件実施しました。そのうち、341件の立入検査において、延べ723件の指導等を行いました。

○令和7年度環境学習施設における環境教育・学習推進リーダー養成研修の開催～「北九州市の環境学習施設における発達段階や学習目標に応じた学習プログラムから学ぶ～見て、触れて、楽しみながら学ぶ、資源循環に関する教育～」

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00485.html

環境省は、学校教職員のほか、行政関係者、民間企業、NPO/NGO、大学生・大学院生等の環境教育や体験活動、地域づくりに関心のある方を対象に、福岡県北九州市の社会教育施設であるタカミヤ環境ミュージアムで研修を開催します。開催日程は、令和7年9月30日（火）です。

○「リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン」及び「リチウムイオン電池による火災防止月間」について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00560.html

1. 環境省では、近年、頻繁に発生しているリチウムイオン電池使用製品による使用時・廃棄時の火災事故を防ぐため、令和7年9月から12月を「リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン」、同年11月を「リチウムイオン電池による火災防止月間」とし、リチウムイオン電池による火災防止に関する周知・啓発を強化します。

2. 期間中は、経済産業省、消防庁及び消費者庁などの関係省庁、製造事業者・処理事業者等、自治体と連携して、リチウムイオン電池の火災防止に繋がる周知・啓発等を実施していく予定です。

3. 具体的な取組として、リチウムイオン電池による火災防止に関する情報を発信する特設サイトを本日開設いたします。

4. また、リチウムイオン電池の火災防止につながる周知啓発等を実施する自治体や事業者を募集し、LiB（※）パートナーとして認定します。LiBパートナーの取組については、特設サイトに掲載する予定です。

※LiBとは、リチウムイオン電池（Lithium-ion Battery）の略称。

5. 更に、Jリーグと連携し、Jリーグの試合会場での周知・啓発イベントも実施します。

6. その他、シンポジウムの開催等のイベント情報も発信する予定です。

○環境インフラ海外展開基本戦略（令和7年版）の策定について

⇒ https://www.env.go.jp/press/press_00544.html

環境省では、「環境インフラ海外展開基本戦略（令和7年版）」を策定しましたので、お知らせします。

◆経済産業省

○第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）が開催されました

⇒ <https://www.meti.go.jp/press/2025/08/20250822001/20250822001.html>

8月20日（水曜日）から8月22日（金曜日）にかけて、第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）が横浜市で開催されました。経済産業省として、日本企業のアフリカでのビジネスを促進する観点から、日本貿易振興機構（JETRO）と連携し過去最大となる約200社・団体によるビジネス展示を

実施するとともに、この機会に前回 TICAD8 を大きく上回る 300 件超の署名文書が確認・披露されました。

○プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第 5 回政府間交渉委員会再開会合が開催されました

⇒ <https://www.meti.go.jp/press/2025/08/20250815001/20250815001.html>

8 月 5 日（火曜日）から 8 月 15 日（金曜日）まで、スイス連邦のジュネーブにおいて、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第 5 回政府間交渉委員会再開会合（INC5.2）が開催されたところ、会合の概要は以下のとおりです。

日本からは、中田宏環境副大臣が関連会合に出席した他、経済産業省（福本拓也 GX グループ審議官他）、外務省（中村亮地球規模課題審議官他）、環境省（小野洋参与、小川眞佐子特別国際交渉官他）、農林水産省（西浦博之輸出・国際局審議官他）から構成される政府代表団が出席しました。184 か国の国連加盟国、関係国際機関、NGO 等約 3700 人が参加しました。

◆農林水産省

○あなたのサステナブルな取組を国内外に発信しませんか？～「サステナアワード 2025」募集開始～

⇒ https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/250801.html

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を推進しています。その一環で、消費者庁、環境省と連携し、「あふの環（わ）2030 プロジェクト」を実施しています。本プロジェクトにおいて、食や農林水産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰する「サステナアワード 2025」の募集を本日開始します。特に優れた作品には、農林水産大臣賞、環境大臣賞、消費者庁長官賞及び AgVenture Lab 賞を授与します。

募集期間：令和 7 年 8 月 1 日（金曜日）から 10 月 31 日（金曜日）まで

○プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第 5 回政府間交渉委員会再開会合の結果概要

⇒ <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/250815.html>

8 月 5 日（火曜日）から 15 日（金曜日）まで、スイス・ジュネーブにおいて、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた第 5 回政府間交渉委員会再開会合（INC5.2）が開催されたところ、会合の概要は以下のとおりです。

日本からは、中田宏環境副大臣が関連会合に出席した他、外務省（中村亮地球規模課題審議官他）、経済産業省（福本拓也 GX グループ審議官他）、環境省（小野洋参与、小川眞佐子特別国際交渉官他）、農林水産省（西浦博之輸出・国際局審議官他）から構成される政府代表団が出席しました。184 か国の国連加盟国、関係国際機関、NGO 等約 3,700 人が参加しました。

◆国土交通省

○SAF の更なる認知拡大に向けて「Fry to Fly Project」に参画します！～廃食用油の活用による資源循環と航空脱炭素化を目指す～

⇒ https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku08_hh_000073.html

国土交通省では、8月23日の「油の日」に合わせて、民間企業及び自治体などによる SAF※の導入促進に向けた取組である「Fry to Fly Project」に参画します。

Fry to Fly Project では、数ある SAF の原料のうち、皆様の身近にある「廃食用油」に着目し、その回収活動などを通じて資源循環と航空脱炭素に貢献できる機会を提供することを目的の1つとして活動しております。

国土交通省としても、この活動への参画と各参加企業・自治体等との連携を通じて、より一層の SAF の認知拡大と航空分野の脱炭素化に向けた取組を推進してまいります。

◆消費者庁

○あなたのサステナブルな取組を国内外に発信しませんか? ～「サステナアワード 2025」募集開始～

⇒ <https://www.caa.go.jp/notice/entry/043207/>

消費者庁は、「みどりの食料システム戦略」の一環で、農林水産省、環境省と連携し、「あふの環(わ)2030 プロジェクト」を実施しています。本プロジェクトにおいて、食や農林水産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰する「サステナアワード 2025」の募集を本日開始します。特に優れた作品には、農林水産大臣賞、環境大臣賞、消費者庁長官賞及び AgVenture Lab 賞を授与します。

募集期間:8月1日(金曜日)から10月31日(金曜日)まで

■各種情報・イベント等

■行政関係

◆青森県

○漂着ごみ組成調査を実施しています

⇒ <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shigen/hyouchakugomi-soleichousa.html>

○もったいない・あおもり賞

⇒ <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shigen/mottutainai.html>

◆茨城県

○新産業廃棄物最終処分場の名称決定について（令和7年8月）

⇒ https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/shijun/shinsaisyuu/syobunnjou_meisyou.html

◆埼玉県

○リチウムイオン電池に起因する火災事故防止への御協力をお願い

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0507/lithium/jikoboshi.html>

◆東京都

○小笠原の海岸クリーンアップイベントを開催

⇒ <https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/08/2025081803>

◆福井県

○「ふるさと環境フェア2025」9月27日（土）開催！！

⇒ <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyou/ee/kankyofair2025.html>

◆長野県

○「食べ残しを減らそう県民運動～e-プロジェクト～」協力店に新規2店舗が登録されました！

⇒ <https://blog.nagano-ken.jp/recycle/tabenokoshiepro/7736.html>

○エコイベント（環境に配慮したイベントの実施）について

⇒ <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/kurashi/kankyo/hozen/ecoevent/ecoevent.html>

◆愛知県

○エシカル消費普及啓発イベント「あいちエシカルパーク」を開催します

⇒ <https://www.pref.aichi.jp/press-release/ethical2025.html>

◆滋賀県

○瀬戸内海プラスチック対策ネットワークによる令和7年度瀬戸内海流域一斉清掃の開催について

⇒ <https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/345449.html>

◆大阪府リサイクル製品認定制度の改正及び申請募集の開始について

⇒ https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/fumin/o120050/prs_50550.html

◆鳥取県

○令和7年度マイボトル運動を実施します！

⇒ <https://www.pref.tottori.lg.jp/324357.htm>

◆岡山県

○海ごみ削減キャンペーン「おかやまゴミ退治大作戦」実施中！

⇒ <https://www.pref.okayama.jp/page/907697.html>

◆千葉市

○千葉市のごみ量

⇒ <https://www.city.chiba.jp/kankyo/junkan/haikibutsu/herasou.html>

◆横浜市

○地域コミュニティ型「ボトル to ボトル」 水平リサイクルの実証実験がスタートしました！

⇒ <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/shi-gen/2025/0807botletobottle.html>

◆相模原市

○生ごみ処理容器購入の助成

⇒ <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/1026489/recycle/1026493/katei/1008340.html>

◆新潟市

○【危険】ごみ収集車や処理施設での火災が発生しています！！

⇒ <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/gomi/oshirase/gomitokasai.html>

◆浜松市

○浜松市 3R 推進優良事業者表彰制度の募集について

⇒ <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shise/koho/koho/hodohappyo/2025/8/1202.html>

◆京都市

○株式会社コークッキングとの食品ロス削減に向けた連携協定の締結

⇒ <https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000344319.html>

◆大阪市

○令和7年度 ごみ減量フェスティバル・各区ガレージセール開催状況

⇒ <https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000278038.html>

◆堺市

○令和7年度食品ロスダイアリーキャンペーン

⇒ https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/gomi/gomi_recy/recycle/syokuhinrosu/syokurosudiary-14day.html

◆福岡市

○フードドライブ開催情報

⇒ <https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/jigyokeigomi/life/3r/fooddrive.html>

◆熊本市

○マイクロプラスチック調査結果について

⇒ <https://www.city.kumamoto.jp/kiji00349100/index.html>

◆文京区

○小型充電式電池・小型充電式電池内蔵製品を窓口で回収しています

⇒ <https://www.city.bunkyo.lg.jp/b038/p000780.html>

◆墨田区

○リチウムイオン電池・モバイルバッテリー・二次電池内蔵の小型家電製品（破損・変形・膨張したもの）

⇒ https://www.city.sumida.lg.jp/kurashi/gomi_recycle/kateikei/dekinai/hasonboucyou.html

◆豊島区

○リチウムイオン電池によるごみ収集車両の火災が発生しました！ごみの分別を徹底してください！

⇒ <https://www.city.toshima.lg.jp/151/2508161412.html>

○リチウムイオン電池などの小型充電式電池はごみ・資源として出さないでください

⇒ <https://www.city.toshima.lg.jp/151/2508191007.html>

○マイボトル用給水機を設置しました

⇒ <https://www.city.toshima.lg.jp/148/2305101158.html>

◆足立区

○リチウムイオン電池など小型充電式電池の出し方

⇒ <https://www.city.adachi.tokyo.jp/seso/kurashi/kankyo/gomi-wakekata/koga-tazyuudenshikidenchi.html>

○A I を活用して食品ロスを削減してみませんか？

⇒ <https://www.city.adachi.tokyo.jp/gomi/aisistem.html>

◆葛飾区

○生ごみ処理機等購入費補助金

⇒ <https://www.city.katsushika.lg.jp/kurashi/1000048/1001534/1001572.html>

◆函館市

○使用済みプラスチック製筆記具等のボックス回収を行っています

⇒ <https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2023111400017/>

◆川越市

○LINE の配信分野に「ごみ・環境」を追加しました

⇒ <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/koho/1009785/1010322/1010323.html>

◆昭島市

○第1回・第2回環境学習講座「身近なごみを資源に」の参加者を募集

⇒ <https://www.city.akishima.lg.jp/s068/020/010/010/020/870/20250801140007.html>

○廃食用油の拠点回収を実施

⇒ <https://www.city.akishima.lg.jp/s072/010/010/010/20250502120112.html>

◆横須賀市

○リチウムイオン電池の取り扱いについて

⇒ https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4105/nagekomi/20250820_lithium.html

○ごみ収集職員の新たなユニフォームについて

⇒ <https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/1220/nagekomi/20250806tshirt.html>

◆東大和市

○リサイクル協力店をご利用ください。

⇒ <https://www.city.higashiyamato.lg.jp/kurashi/gomirecycle/1001947/1001957.html>

◆金沢市

○まちなか開催！リユース市

⇒ <https://www4.city.kanazawa.lg.jp/news/25252.html>

◆松本市

○自動車オートバイ用バッテリー（鉛蓄電池のみ）、消火器、ガスボンベの休日特別収集を行います

⇒ <https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/53/179913.html>

◆佐賀市

○佐賀市環境報告書 e - ガイド

⇒ <https://www.city.saga.lg.jp/main/2927.html>

■団体関係

◆アルミ缶リサイクル協会

○リサイクルニュース 2025年07月号 Vol.172 を掲載しました。

⇒ <https://www.alumi-can.or.jp/pages/36/>

○出前教育 中央区の環境情報センターエコノバで子供たちにリサイクルの教育を行いました。

⇒ <https://www.alumi-can.or.jp/pages/71/>

○出前教育 新宿区の西早稲田リサイクル活動センターで子供たちにリサイクルの教育を行いました。

⇒ <https://www.alumi-can.or.jp/pages/71/>

○出前教育 品川区のエコルとごしで子供たちにリサイクルの教育を行いました。

⇒ <https://www.alumi-can.or.jp/pages/71/>

◆ガラスびん3R促進協議会

○びんの3R通信 vol.63 発行「令和5年度ガラスびん分別基準適合物引渡量分析」を掲載

⇒ <https://www.glass-3r.jp/news/pdf/news20250731.pdf>

◆(一社)環境衛生施設維持管理業協会

○令和7年度 技術部会 施設見学研修会 開催される

⇒ <https://www.j-ema.com/new/2025/08/18/1715.html>

◆(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット

○自治体のご担当者向けに「容器包装の3Rと普及啓発に関する情報交換会」を開催しました！

⇒ <http://www.genki-net.jp/news/3064/>

○大正大学の講義に参加し、プラスチックのリサイクル制度とリチウムイオン電池問題を共有しました

⇒ <http://www.genki-net.jp/news/3058/>

◆(一社)全国清涼飲料連合会

○清涼飲料用ペットボトル容器、「環境配慮設計認定制度」対象製品に

⇒ <https://www.j-sda.or.jp/news/2025/07/24/post-1402/>

○ペットボトルの環境配慮設計認定について

⇒ <https://www.j-sda.or.jp/environment/circulation-society05.php>

○全清飲、板橋区リサイクルプラザにて「ペットボトルのリサイクル展示」

⇒ <https://www.j-sda.or.jp/news/2025/08/04/post-1417/>

◆(公財)日本産業廃棄物処理振興センター

○メールマガジン「JW センターNEWS」第227号発行のお知らせ

⇒ <https://www.jwnet.or.jp/info/mailmag/backnumber/no227.html>

◆(一社)プラスチック循環利用協会

○「プラスチックリサイクルの基礎知識 2025」を更新し掲載しました。

⇒ <https://www.pwmi.or.jp/news/new/post-2676/>

■その他募集

◆愛知県

○プラスチックごみ削減の取組を体験する「あいちプラごみ無くし隊」の隊員を募集します

⇒ <https://www.pref.aichi.jp/press-release/20250804plasticwaste.html>

○「2026 愛知環境賞」へのエントリーを募集します！

⇒ <https://www.pref.aichi.jp/press-release/2026aichikankyoushou01.html>

◆沖縄県

○食品ロス削減の取組アイデア募集キャンペーン

⇒ <https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/shoku/1023571/1035939.html>

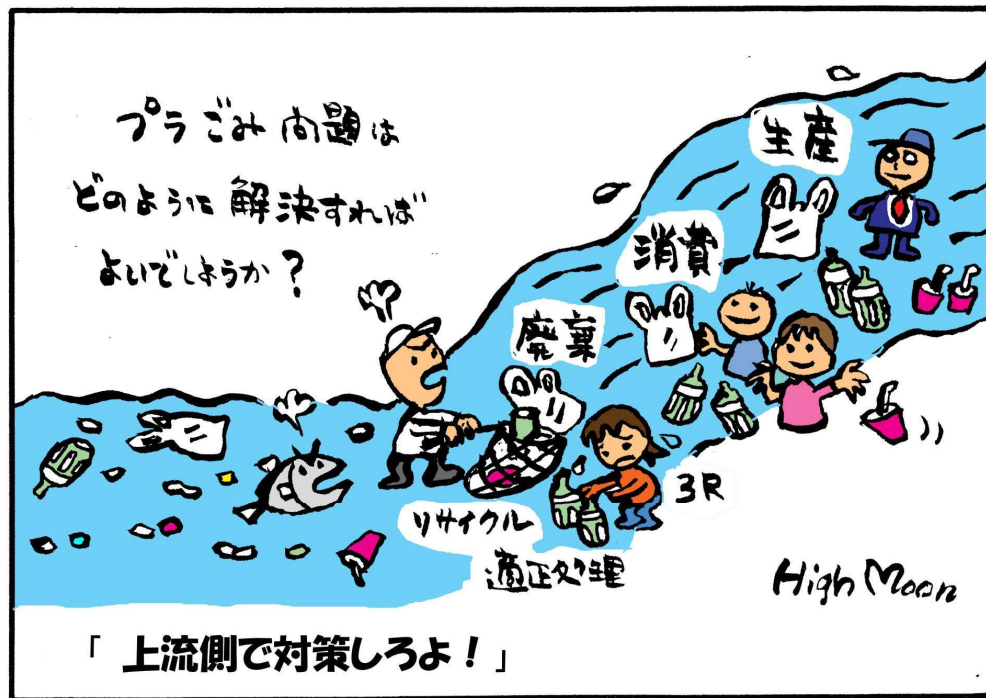
◆吹田市

○すいた環境教育フェスタ 2026 出展者募集

⇒ <https://www.city.suita.osaka.jp/sangyo/1018079/1018435/1018434/1039425.html>

第21回：プラごみ条約その2（ゴミック新作集 18-10）

プラスチックを含む汚染は、気候変動や生物多様性の損失と並ぶ、現代の3大環境問題と言われるまでになってきました。そこで、国連の指導でプラごみ対策の国際的な条約づくりが始まりましたが、いまだに各国の間で条文のとりまとめの合意ができていません。最大の論点は生産規制に関する項目についてであり、これに関してはプラスチックの原料を産出する国や生産に積極的なインドなどが難色を示しており、米国や中国も消極的な態度のようです。しかし、プラスチック汚染に対処するには上流側から下流側まで全体での対策が必要なことは間違いないようです。



作者註：国際的なプラごみ条約は、また、合意が見送られました

「連載：3R・気候変動マンガ集」には、毎回、3R分野と気候変動分野にちなんだ作品を「ハイムーン工房ギャラリー」の「ゴミック新作集」(<https://highmoonkobo.net/>)からピックアップして紹介します。

なお、ハイムーン氏は氏が作成したマンガ、イラストについては基本的には著作権主張されず、むしろ多くの人に活用されることを望んでおられます。例えば、環境NPOのニュースレター、各自治体の廃棄物対策用啓発パンフレット、教育現場での教材などには、紙媒体だけでなく電子媒体でも活用可能です。イラスト利用の場合は出来れば「ハイムーン工房のホームページより」などと出典を明記していただければ幸いです。但し、企業の営利にかかわるものへの活用はお断りされています。

また、ハイムーン工房のギャラリー作品は一つの作品に3つの解像度（オリジナル、中サイズ、小サイズ）のものを用意されていますので、要望に合わせてダウンロードして活用ください。

作品についてのさらなる要望（たとえば白黒画像など）があれば、直接、ハイムーン氏へ下記電子メールで連絡してください。

■プロフィール：高月 紘

【略歴】1941年京都府生まれ。1965年京都大学工学部卒業、1977年京都大学工学博士、1985年京都大学環境保全センター教授。京都大学名誉教授 工学博士（廃棄物処理）。

京エコロジーセンター前館長。公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 前理事長。日本漫画家協会会員。

【コンタクト】ハイムーン工房：URL <http://highmoonkobo.net/> 電子メール：em.highmoon@gmail.com

1. JCCCA からのお知らせ

【環境学習支援ツール】地球温暖化まなびBOXの公開について

<https://www.jccca.org/news-info/371031>

JCCCA（全国地球温暖化防止活動推進センター）では、気候変動教育の導入促進に向けて、Gakken と共同で「地球温暖化まなびBOX」を開発しました。

本ツールは、「気候変動教育を始めたいが方法がわからない」という教員向けに作られた教材で、授業で手軽に活用できます。

本日より、本ツールを公開いたしましたのでご案内申し上げます。

下記ページよりアクセスいただけます。

<https://www.jccca.org/climate-change-education/manabi-box>

※教材のダウンロードには、利用登録フォームへの入力が必要となります。

「地球温暖化まなびBOX」は、授業などで気候変動教育を手軽に始められるように設計した教材です。ぜひ環境教育の現場でご活用ください。

未来の地球を守る教育の普及に向けて、皆さまのご支援とご協力を賜れますと幸いです。

2. 温暖化関連イベント情報

【参加無料・事前予約制】大阪・関西万博にて「Future Kid Takara」上映イベント開催のご案内

https://www.jccca.org/event_info/376675

<お願い>

JCCCA ウェブサイトでは、温暖化関連イベントの情報を掲載しています。

掲載希望のイベントがございましたら、下記の URL からご連絡をお願いいたします。

<https://www.jccca.org/otoiawase/event-form>

~~~~~  
発行者：全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）

<https://www.jccca.org/>

瀬戸内にあるこの美術館には、世界 26 か国にある 190 余りの美術館が所蔵する西洋絵画 1,000 点程が、原寸大に、陶板に再現されて展示されている。いわゆるレプリカではあるが、ヴァチカン市国にあるシスティーナ礼拝堂の祭壇の壁一面に描かれた、縦約 13.7 メートル、横約 12 メートルの巨大なフレスコ画であるミケランジェロの「最後の審判」を、現地さながらに見上げることができるのである。

絵画集オタクの筆者は、各国に散在する多くの名画が一堂に会し、そのすべて原寸大の迫力で、色使いやタッチまで忠実に、精密に、しかも陶板に再現する技術により空間も伴って展示されていることに感銘を受けるとともに、次のようなことを考えた。

現物は、文化財として、現地の気候風土とともに保存して保護されて、持ち出さない。陶板によるレプリカを全国各地に空間展示すれば、わざわざ現物を移動することによる破損や喪失のリスクは回避され、時間、労力、費用に加え、エネルギー消費による温室効果ガスの排出も削減できるのではないか……。



徳島県鳴門市の大塚国際美術館にて  
写真撮影・文責：村岡良介

---

□■編集後記■□

---

台風の進路が昔と変わったと言われます。確かに、台風は日本近辺で偏西風に乗り、北東に進むものと勝手に記憶しています。近年は、太平洋高気圧の影響もあり、時には大きく南下したり、逆走したり、迷走という言葉まで使われたことがありましたね。この現象に関して、地球温暖化の影響は賛否両論あつて真相は定かではありませんが、「適応策」としても、台風の奇襲にも備えて、台風情報をこまめに確認することが重要ですね。

お気に入りの画像にメッセージを添えて、「今月の 1 枚」を投稿しませんか？

「合格者の声」の投稿も歓迎します！

本ニュースレターを読者の皆様ご自身の活動紹介や情報発信、交流の場に活用してください。

編集メンバー：浅利美鈴（総合地球環境学研究所）、村岡良介（日本環境衛生センター・村岡環境カウンセラー事務所）、山田大智（京都大学）

協力：3R・資源循環推進フォーラム、全国地球温暖化防止活動推進センター

---

---

□■お問い合わせ窓口■□

---

---

◆一般社団法人 持続可能環境センター◆

〒604-8874 京都市中京区壬生天池町 27-4 Tel : 075-708-8144 FAX : 075-708-8153

◆3R・気候変動検定 検定事務センター◆

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-16-13 堺筋ベストビル 9 階 一般財団法人 環境事業協会内

電話 : 06-6210-1720 Website: <https://3r-cc.jp> E-mail : [ex@3r-cc.jp](mailto:ex@3r-cc.jp)

Instagram ID: @3r\_kikouhendou\_kentei: ([https://www.instagram.com/3r\\_kikouhendou\\_kentei/](https://www.instagram.com/3r_kikouhendou_kentei/))

X (Twitter) ID: @3r\_lcs\_kentei ([https://twitter.com/3r\\_lcs\\_kentei](https://twitter.com/3r_lcs_kentei))

Facebook ID: @3r・気候変動検定 (<https://www.facebook.com/3rteitanso/>)

受付時間 9 : 00 - 17 : 00 (12 : 00 - 13 : 00 を除く) 休業日 : 土・日・祝・年末年始 (12 月 28 日 ~ 1 月 5 日)